

## 奥田 隆司 (おくだ たかし) 先生のプロフィール

●勤務先 (医)福香会 おくだクリニック

●経歴 昭和50年 九州大学医学部卒業。

昭和58年 九州大学医学部大学院修了。九州大学病院整形外科入局。

国家公務員共済 浜の町病院、北里大学病院 整形外科、  
国立別府病院に勤務

公立学校共済 九州中央病院を経て開業。  
現在に至る。

●専門 整形外科、リウマチ



### ◆先生が初めて漢方と出会われたのはいつ頃ですか

昭和56年頃、知人のDrより紅参末が女性の肩こりに良く効くと教えられ、使用したのが漢方に興味(紅参は単味なので漢方とはいえませんが)を持ったきっかけだといえます。

### ◆先生の御専門で漢方はどのような効果を発揮していますか

私は、整形外科の無床診療所を営んでいます。肩こり、腰痛、膝その他の関節痛、打撲、捻挫、間接リウマチ等の患者さんを漢方薬中心に治療を行っています。

外傷後の痛みが他医で治療中の患者さんが時々見えますが、漢方薬が良く効きます。漢方の素晴らしさを実感しております。

### ◆普段の治療で漢方薬と西洋薬との割合はどれくらいですか

現在、治療薬は漢方薬(煎じ薬を含めて)が8割を占めています。西洋薬は補助的に使う感じです。



### ◆10年後の漢方医療はどうなっている(またはどうあってほしい)とお考えですか

漢方が多くの医師の日常治療に取り入れられていると思います。

ただ、生薬の生産や薬価の関係で必要な生薬の一部使用できなくなるのではと、危惧しております。そのようなならないよう、政府の配慮と製薬メーカーの尽力に期待しております。

◆先生ご自身漢方を飲んで効果を実感なされたことがありますか

実感したことは多々あります。風邪だけでなく、体調が悪いなと思った時には、先ず漢方薬を飲んで  
います。家族(子供も含めて)も風邪の時は漢方薬を飲んでいます。

◆これから漢方医を志す方に一言お願いします

漢方の勉強を始めた頃は、東洋医学の生体観に多少違和感を抱いていたのですが、  
今では東洋医学は、生体を全体的に捉える上で、西洋医学よりも有益であると感じています。

これから漢方医を目指す方には、漢方の運用のみに目を奪われず、是非、東洋医学の生理、  
病態観を学んで欲しいと思います。

◆漢方に関心のある一般の方に一言お願いします

各漢方エキス剤にはそれぞれ保険適用される病名があります。  
しかし、治療上、保険適用のない病気に対して漢方を処方することもあります。

処方された漢方エキス剤の説明に、自分の病気の適用が載ってなくて、疑問に感じたときは、  
薬局の薬剤師に質問するのではなく、処方した医師に処方した理由を聞いてください。



注意:先生へのインタビューは、当会が2008年12月に行った内容です。